

# 商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2022年1月調査結果-

## 調査概要

- 調査期間 2022年1月12日～1月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 131社
- 回収率 65.5%

### ※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

## 旭川市概況

※全産業の1月の状況を見ると業況DIは、前月より2.2ポイント悪化の▲25.2となった。

2017年9月以来53ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲28.2、当月と比べ3.0ポイントの悪化が見込まれる。

## 旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2021年 8月	9月	10月	11月	12月	2022年 1月	先行き見通し 2022年2月～ 2022年4月
業況	▲37.2	▲42.0	▲32.6	▲33.4	▲23.0	▲25.2	▲28.2
売上	▲19.2	▲26.4	▲14.7	▲15.4	▲6.3	▲10.0	▲21.4
採算	▲33.0	▲45.2	▲34.9	▲35.8	▲21.4	▲27.5	▲33.6
仕入単価	▲47.7	▲51.6	▲62.0	▲65.1	▲65.9	▲68.7	▲64.6
販売単価	1.5	5.6	4.7	13.0	8.7	13.0	16.8
従業員	23.9	25.8	19.4	21.1	23.1	23.7	22.3
資金繰り	▲16.3	▲18.6	▲17.1	▲11.3	▲6.3	▲11.5	▲16.7

## 旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2021年 8月	9月	10月	11月	12月	2022年 1月	先行き見通し 2022年2月～ 2022年4月
建設	▲27.6	▲31.1	▲18.5	▲43.4	▲32.2	▲27.6	▲24.2
製造	▲34.5	▲42.9	▲37.5	▲41.4	▲26.7	▲9.7	▲22.5
卸売	▲35.7	▲29.6	▲20.7	▲22.2	▲7.4	▲28.5	▲28.5
小売	▲63.2	▲52.9	▲44.5	▲26.7	▲23.5	▲44.4	▲38.9
サービス	▲33.3	▲60.9	▲47.8	▲27.3	▲25.0	▲24.0	▲32.0

## 今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共工事に関する設計変更が未確定であり、最終利益の見通しが立てづらい。オミクロン株の拡大により景況感の悪化懸念から、民間工事発注意欲の減速感が加速。（総合工事）</li> <li>・工事量は、前例年並みの受注を維持し、向こう3ヵ月も順調に推移するものとする。人材については不足気味で即戦力（資格保有者）と将来を見据えて若い人材の確保を積極的に進めたいと考えている。（設備その他）</li> <li>・新型コロナウイルスによる影響はなかったが、旭川に大型物件の建設が少ない。建設業は冬期間さらに仕事が減少にあるため、売上増加は見込めない。仕入単価がどんどん上昇にあり、客単価が伸びない。人材については不足気味で特に将来を担う若者の確保が難しい。（建築業）</li> <li>・本州行きがコロナにより中止。3月中旬頃から仕事開始。その間の従業員の雇用が厳しい。同業者も同じ状況。（建築業）</li> </ul>
製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内の取引先からの発注で多少の売上増があったが、新型コロナのオミクロン等で感染者が急増している影響で停滞。今後コロナの第6波の収束が見えない限り、売上が伸びる見込みがないと思われる。（食料品）</li> <li>・原材料、消耗品等すべてにおいて値上げの要請があり、2/1出荷分より10%～18%で売上に転嫁させて頂き、再見積りをお願いしているところである。（印刷・出版）</li> <li>・コロナ再拡大で店舗オフィス什器の受注は大幅な減少の見込。今年も厳しい経営が続くそう。（家具・木材）</li> <li>・資材高騰、品薄欠品が続出。受注から納期の延長をお願いしているが、修理等で売上を確保している。（金属窯業他）</li> </ul>
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナが収束しかけていただけに新年度は期待感があったが、現在の感染爆発により輸出入に大きな影響が出ている。特に様々なコストが上がっており、インフレを懸念している。（繊維・衣服等）</li> <li>・売上増はグループ会社合併によるもの。新設のシステム管理部門にてシステム基盤刷新プロジェクトを開始した。（飲食料品）</li> <li>・価格の上昇・品不足が広範囲にわたり厳しい状況。（機械鋼材）</li> <li>・灯油について昨年12月仕入値が下落したため、1月に入り販売単価を下げたものの、直近では仕入値が上昇傾向になっており、販売単価の上昇が予想される。（その他）</li> </ul>
小売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナウイルス（オミクロン株）の影響によりお客様のライフスタイルに変化があるようである。感染拡大を防ぐためか中心部の人の往来が少なく来店客もなく売上が大変厳しい。（衣服身回品）</li> <li>・オミクロン株の流行で売上が低下し、まん防が終わるまでは増加することはないので、来月も厳しい状況が続くと思われる。（食料品）</li> <li>・昨年末から徐々に来店者数も増えてきていたが、今週からまん延防止が適用となり、来店者数の減少が懸念される。仕入れ先から値上げの連絡が入っており、今後は採算性も悪化すると思われる。（その他）</li> </ul>
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年は緊急事態宣言もあり、年より売上は向上したがオミクロン株の影響次第で3ヵ月の見通しは変わるものと思われる。油の高騰や食材仕入れの値上がりで採算はさほど好転しない予測。（ホテル・旅館）</li> <li>・計測機器の更新時期を迎え、優待制や助成金を利用し設備投資を進めている。（その他）</li> <li>・オミクロン株による外出控えは想像以上にある。の先も厳しい状況が続くと懸念される。（飲食）</li> <li>・年末年始の人の動きは復活してきた感が大きく、このまま抜け出せば良いのだが感染再拡大の懸念は払拭できない。冬期スキー等での貸切バス事業にも期待していた。燃料価格が下がってくれることを切望していたが、コロナ感染拡大、まん延防止発令予定でキャンセル多発。期待していただけに厳しさひとしお。（運送）</li> <li>・1月前半は都市間、市内路線共に回復傾向にあったが、急速な感染拡大に伴い予断を許さない状況になってきた。このため影響のなかった令和元年度までの回復はほど遠く、更に燃料価格の高騰が経営に悪影響を与えており、昨年度と同様、相当厳しい状況が想定される。（運送）</li> </ul>

## 旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI7.9 ポイント改善、採算 DI11.7 ポイント改善、仕入単価 DI4.5 ポイント悪化、販売単価 DI3.6 ポイント悪化、資金 DI0.1 ポイント改善、従業員 DI1.2 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 4.6 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、設備・その他 20 ポイント悪化、総合工事 17 ポイント、建築業 7 ポイント改善となった。仕入単価の上昇がつづき、販売単価を上げざるおえない状況です。人手は不足気味なので人員を増やす予定。それに伴い働き方改革の見直しが必要との声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI 横ばい、採算 DI2.6 ポイント悪化、仕入単価 DI10.3 ポイント悪化、販売単価 DI2.7 ポイント改善、資金 DI3.3 ポイント改善、従業員 DI12.6 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 17.0 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、家具・木材横ばい、食料品 14 ポイント、印刷・出版 50 ポイント、金属窯業他 10 ポイント改善となった。木材や塗料など資材の値上がりが大きく影響している。商品の値上げを検討しているが、周知に時間がかかりそうとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI18.5 ポイント悪化、採算 DI28.4 ポイント悪化、仕入単価 DI1.4 ポイント悪化、販売単価 DI16.8 ポイント改善、資金 DI18.0 ポイント悪化、従業員 DI15.0 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 21.1 ポイント悪化となった。業種別では、機械鋼材 5 ポイント改善、その他横ばい、繊維・衣服等 60 ポイント、食料品 43 ポイント悪化となった。前年度と同等の業況であるとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI5.2 ポイント悪化、採算 DI9.8 ポイント悪化、仕入単価 DI2.7 ポイント改善、販売単価 DI 横ばい、資金 DI5.0 ポイント悪化、従業員 DI4.3 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 20.9 ポイント悪化となった。業種別では、自動車 10 ポイント改善、衣料品横ばい、食料品 50 ポイント、その他 29 ポイント悪化となった。コロナによる影響。濃厚接触者の増加（スタッフ関連）。原油動向、出荷等。先行き不安要素が多いとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI3.5 ポイント悪化、採算 DI3.3 ポイント悪化、仕入単価 DI2.5 ポイント改善、販売単価 DI4.5 ポイント改善、資金 DI7.2 ポイント悪化、従業員 DI3.0 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 1.0 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、整備業 40 ポイント、運送 25 ポイント悪化、理美容・クリーニング、その他横ばい、ホテル・旅館 20 ポイント、飲食 17 ポイント改善となった。年末年始人出が多くなり売上も一昨年に近づいてきたと思ったらコロナの再拡大で人出がまばらになってきた。残念としか言いようがないとの声も寄せられている。</p>